

TAC 公務員講座 オリエンテーション

【オリエンテーション】とは？

→TAC では公務員試験の学習を始める前にあらかじめ知っておくべきことをお伝えするために初回の講義として「オリエンテーション」を実施しています。本講義はこれから始まる受験対策の大まかな方向づけや方針を確認することで、効率的な学習につなげていただくことを狙いとしております。合格のための第一歩として、試験の特徴とその攻略法について説明していきます。一般的に、公務員試験は対策すべき科目数が多いため、要領の良さが問われる試験だといわれています。限られた期間で攻略するためにも、学習戦略の全体像を把握していきましょう。

1. 学習サポートガイド

→限られた時間の中で効率よく学習し、最終合格・内定を勝ち取るためには、明確な目的（目標）を持つことと、その目的に見合った手段を用いることが必要不可欠です。受験する試験について知ることは、学習の目的や必要な対策（手段）を明確にすることにつながります。TAC の提供するサービスは、受験する試験についての情報はもちろん、その攻略のために必要な対策が豊富にそろっています。それを最大限に活用していただくためにも、まずは TAC について知ることからはじめていきましょう。

TAC ではスムーズに受験対策を進められるように「学習サポートガイド」をご用意しています。TAC 公務員講座に入会したら、本科生に使ってほしい 12 のことをまとめた冊子になっています。



実際に「学習サポートガイド」を開きながら、一つずつ確認していきましょう。以下ではその一部を掲載しています。



■ TAC WEB SCHOOL ■ マイページ登録を済ませて受講スタート！

【WEB SCHOOL の活用術】

担任によるサポートや復元シート（デジタル教材）などを含め、面接や学習に関するほとんどの情報は TAC WEB SCHOOL にアクセスすることで簡単に入手できます。まだ未活用で、TAC WEB SCHOOL が実際にどのようなものか確認したい方は、下の QR コードからアクセスし、その活用術について一度確認してみてください。



■ 担任カウンセリング ■ 困ったときは対面でもオンラインでも！

【対面&オンライン (Zoom)】

学習や進路に関することなど、気軽に担任によるサポートを受けることができます。面接の練習やエントリーシートの添削など、様々な要望にお応えしています。

対面カウンセリングは、校舎によって予約方法が異なりますので詳細はご利用の校舎で確認してください (TAC WEB SCHOOL には各校舎の担任在籍予定表やイベント予定表などが掲載されています)。

オンライン (Zoom) カウンセリングは、TAC WEB SCHOOL マイページに予約サイト (TAC 公務員講座 WEB 予約サイト) の案内が掲載されていますので必ず確認しておきましょう。



■ オリエンテーションブック ■ 受験対策の羅針盤！



公務員試験に関するさまざまな情報を掲載しています。公務員の職種と仕事内容から試験概要や実施状況、学習方法まで基本的な情報が網羅されています。

試験に関する情報は令和4年度の情報を中心に掲載しています。掲載されているほとんどの情報は令和6年度の受験にも有効ですが、試験制度が変更になることがあるため、最新の情報や変更点は、試験対策ゼミ (講義) によってアップデートされていきますのでご安心ください。

Web 講義を中心に学習する方に関しては、「モデルカリキュラム」も掲載していますので、学習スケジュールを立てる際に役立てることができます。

「オリエンテーションブック」を開きながら、その使い方を確認していきましょう。

■ 試験対策ゼミ ■ 最新情報をアップデート！

試験対策ゼミは公務員試験の最新情報や学習方法、受験準備等について詳細に説明するための全6回の講義です。オリエンテーションブックのアップデートや補強も兼ねています。学習進捗の確認のために定期的に行っているオンラインホームルームと合わせてご利用ください。

全6回	予定している内容
第1回	学習方法① (講義の選択・学習計画・進捗)
第2回	国家公務員編① (国般・国専)
第3回	地方公務員編① (都・区・道府県)
第4回	地方公務員編② (政令市・市役所) 国家公務員編② (裁判所)
第5回	学習方法② (直前期・模試・他)
第6回	試験概要 (試験説明会)



2024年度 学習進捗表 (2024年度 学習進捗表) の表の構造は、科目ごとの進捗状況を示すための表である。表の上部には「2024年度 学習進捗表」というタイトルがあり、その下に「科目」と「進捗状況」の列がある。表の下部には、学習進捗を確認するための注意事項や、学習進捗を確認するための方法が記載されている。

■ 学習進捗表 ■ 受験対策のペースメーカー！

学習期間ごとに科目の理解度や到達度を示したもので、TAC WEB SCHOOL マイページ上に掲載しています。何から始めてどの時期までに何をすべきかがわかるため、ご自身の学習進捗を管理することができます。

また、学習進捗の確認のために定期的に行っているオンラインホームルームでは、投票機能を使い、他の受講生の進捗状況も確認できますので、併せて利用することをお勧めします。

■ 日程表 ■

【校舎別 & モデルカリキュラム】

各校舎・入学月別のカリキュラムに沿って受講できるようになっていますが、科目によっては教室の講義ではなく Web 講義を利用する形態になっていますので、速修本科生専用のモデルカリキュラムを TAC 公務員講座日程表 (p.22) に掲載しています。あくまで参考ではございますが、学習する科目や順序などを参考にしてカスタマイズしていきましょう。

TAC 公務員講座日程表 (TAC 公務員講座日程表) の表の構造は、講座の日程を示すための表である。表の上部には「TAC 公務員講座日程表」というタイトルがあり、その下に「講座名」と「日程」の列がある。表の下部には、講座の日程を確認するための注意事項や、講座の日程を確認するための方法が記載されている。



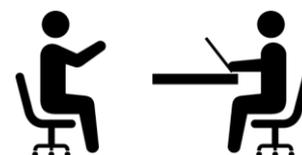
■ 質問コーナー・質問メール ■

学習内容や受験に関する疑問は 24 時間いつでもメールで質問することができます。質問メールは利用期限内に 80 回まで可能で、受験に関する疑問や問題に関する質問だけでなく、進路に関する不安や相談、面接に関することなどもご質問できます。

質問コーナーは一部の科目、校舎での実施ですが、オンラインでも実施しています。詳しい日程や科目は TAC WEB SCHOOL にご確認ください。

■ 面接対策講義・模擬面接 ■

面接対策講義は全 3 回 (導入編・基本編・直前編) で構成されています。学習を開始した段階から対策を行いますので、直前期に慌てて対策をして準備不足のまま本番を迎えることはありません。



導入編 (入学以降～随時)

▶ 学習開始直後の早い段階で、面接対策の全体像を把握していただき、現時点で行うべき面接の準備などについて解説していきます。特に自己分析の方法など中心に解説していきます。



基本編（2023年10月以降～随時）

▶面接全般に関する基本事項を押さえ、質疑応答や面接カードの具体的な考え方や注意点を確認し、秋以降に実施される模擬面接に向けた準備を整えていきます。



直前編（2024年5月頃）

▶地域別の人物試験について、例年受験者の多い試験種（自治体）を中心に、面接試験の傾向や特徴、準備について各地区の担任講師が詳細に解説していきます。



※上記のほか「官庁訪問対策講義」もあります。

模擬面接

▶講義を受講し、面接カードの記入が済んだら、模擬面接を積極的にご利用ください。多くの受験生は1次試験対策がひと段落した春ごろから利用していきませんが、早くからも対応しています。担任カウンセリングやWebカウンセリングなどでも利用が可能です。詳しくはTAC WEB SCHOOLで案内がありますので、ご確認ください。また、一部の試験で実施される集団討論や集団面接にもしっかり対応していますのでご安心ください。



2. 試験ガイド

【1次試験日程】

令和5年度			令和4年度		
4月	9日(日)	国家総合職	4月	23日(土)	自衛隊一般幹部候補生①
	16日(日)	参議院事務局総合職		24日(日)	国家総合職
	22日(土)	自衛隊一般幹部候補生①		30日(土)	参議院事務局総合職 警視庁(第1回)
	23日(日)	名古屋市	5月	1日(日)	東京都I類B 特別区I類(東京23区)
	29日(土)	警視庁(第1回)		7日(土)	裁判所一般職(大卒)
	30日(日)	東京都I類B 特別区I類(東京23区)		8日(日)	東京都I類A 警察官(5月)
5月	13日(土)	裁判所一般職(大卒)		14日(土)	衆議院事務局一般職(大卒)
	14日(日)	東京都I類A 北海道一般行政A(第1回) 大阪府行政 警察官(5月) 東京消防庁(第1回)		15日(日)	北海道一般行政A(第1回) 大阪府行政
	20日(土)	衆議院事務局一般職(大卒)		22日(日)	愛知県 東京消防庁(第1回)
	21日(日)	愛知県	6月	5日(日)	国税専門官 財務専門官 労働基準監督官 食品衛生監視員 皇宮護衛官 航空管制官 法務省専門職 海上保安官(大卒)
	28日(日)	堺市		12日(日)	国家一般職(大卒)
6月	4日(日)	国税専門官 財務専門官 労働基準監督官 食品衛生監視員 皇宮護衛官 航空管制官 法務省専門職 海上保安官(大卒)		19日(日)	地方上級(県・政令指定都市) 市役所A日程
	11日(日)	国家一般職(大卒)		25日(土)	自衛隊一般幹部候補生②
	18日(日)	地方上級(県・政令指定都市) 市役所A日程	7月	3日(日)	国立大学法人等
	24日(土)	自衛隊一般幹部候補生②		10日(日)	市役所B日程
7月	2日(日)	国立大学法人等	8月	28日(日)	東京消防庁(第2回)
	9日(日)	市役所B日程	9月	18日(日)	市役所C日程 警察官(9月)
9月	17日(日)	市役所C日程 警察官(9月)		25日(日)	北海道一般行政A(第2回)
	24日(日)	北海道一般行政A(第2回) 東京消防庁(第2回)	10月	23日(日)	神奈川県(秋季チャレンジ)
10月	22日(日)	神奈川県(秋季チャレンジ)			

➡リスクを回避するためになるべく多くの試験を併願(5~6つ程度の試験種)するのが一般的です。採用人数や受験倍率が安定している大規模試験は4月下旬~6月下旬に集中しており、この時期をメインターゲットにする受験者が多いです。このような場合、4月末までに1次試験に必要な対策の大部分を済ませる必要があり、5月以降は2次試験対策中心にシフトしていくことが求められます。学習期間は人によって違いますが、半年程度で合格するためには、効率的な学習が求められているといえます。

【実施形式】

行政事務	国家公務員			地方公務員					法人
	国家一般職 (大卒)	国税専門官A 財務専門官 労働基準監督官A	裁判所一般職 (大卒)	東京都I類B (一般方式)	特別区I類 (東京23区)	地方上級 (県・政令市)	市役所 教養+専門型	市役所 教養型 警察官・消防官	国立大学 法人等
教養択一	●	●	●	●	●	●	●	●	●
専門択一	●	●	●	—	●	●	●	—	—
論文	●	—	●	●	●	●	●	●	—
専門記述	—	●	●	●	—	一部あり	—	—	—
面接	●	●	●	●	●	●	●	●	●
集団討論	官庁訪問	—	—	—	—	●	一部あり	一部あり	一部あり

※試験制度は変更になる場合があります。受験の際は必ず最新の試験案内をご確認ください。「●」=実施あり「—」=実施なし

➡筆記試験の形式はおおむね4種類で、択一式(マークシート)の試験(教養・専門)が2種類、記述式(論文・専門記述)の試験が2種類あります。特に大卒程度の行政・事務職系の1次試験においては、**教養択一、専門択一、論文**を課すことが一般的で、この3つの対策によって、多くの試験種を併願先として視野に入れることができるようになります。

【科目別出題数（占有率）】（詳細はオリエンテーションブック p.21～22 参照）

教養択一（基礎能力）試験

➡教養択一試験は、下記のように一般知能分野と一般知識分野に分類できますが、出題比率が高い試験が多いことから、一般知能分野が対策の中心となります。特に数的処理は苦手とする方が多く、対策に多くの時間を費やすことになります。

教養択一	一般知能分野	数的処理（数的推理・判断推理・空間把握・資料解釈）、文章理解（現代文・英文）
	一般知識分野	社会科学（政治・法学・経済・社会・時事）、人文科学（日本史・世界史・地理・思想・文芸）、自然科学（数学・物理・化学・生物・地学）

教養択一	国家一般職	国税専門官	裁判所一般職	特別区 I 類	都 I B	地上（全）	地上（関）
数的処理	14	14	14	19	16	17	12
文章理解	10	10	10	9	8	8	8
出題数／解答数	24／30	24／30	24／30	28／40	24／40	25／50	20／40
占有率	80%	80%	80%	70%	60%	50%	50%

専門択一試験

➡専門択一試験は、受験する試験種により出題される科目数や科目ごとの出題数が変化しますが、下記のように出題比率が高い試験種が多いことから、法律分野・経済分野の主要科目の学習が対策の中心となります。

専門択一	法律分野	憲法、民法、行政法
	経済分野	ミクロ経済学、マクロ経済学、財政学

専門択一	国家一般職	国税専門官	裁判所一般職	特別区 I 類	地上（全）	地上（関）
法律（主要 3 科目）	20	12	20	20	13	15
経済（主要 3 科目）	15	12	10	15	12	19
出題数／解答数	35／40	24／40	30／30	35／40	25／40	34／40
占有率	87.5%	60%	100%	87.5%	62.5%	85%

※法律主要 3 科目（憲法・民法・行政法）

※経済主要 3 科目（ミクロ経済学・マクロ経済学・財政学）

択一試験合計

➡択一試験全体でみると、試験種により 20～25 科目前後の出題科目がありますが、問題数でみると主要の 8 科目で占める割合が高いことがわかります。限られた期間で効率的に学習するためには、この主要科目の攻略が合否に大きく影響するといえます。

択一試験合計	国家一般職	国税専門官	裁判所一般職	特別区 I 類	地上（全）	地上（関）
出題数／解答数	59／70	48／70	54／60	63／80	50／90	54／80
占有率	84.2%	68.6%	90%	78.8%	55.6%	67.5%

※主要 8 科目（数的処理・文章理解・憲法・民法・行政法・ミクロ経済学・マクロ経済学・財政学）

➡大卒程度の択一試験（教養+専門）の科目数を合計すると、多い試験種で 25 科目前後になります。試験で出題がある以上、すべてを学習することが理想的ではありますが、時間がかかってしまうため、短期学習で合格することが前提であれば、そのような学習には無理があります。合格に必要な正答率は試験種により異なりますが、一般的には高くても満点の 60%前後だといわれています。上表でわかるように、多くの試験種では、上記主要 8 科目だけで総出題数の 60～80%を占めています。短期間で学習して結果を出すためには、これらの科目を得点のベースにすることが重要だといえます。

【1次試験ボーダーライン】

国家一般職（行政関東甲信越）

1次合格	2023	2022	2021	2020
最低点	44/80	44/80	45/80	45/80
得点率	55.0%	55.0%	56.3%	56.3%

国税専門官

1次合格	2023	2022	2021	2020
最低点	39/80	37/80	36/80	33/80
得点率	48.8%	46.3%	45.0%	41.3%

財務専門官

1次合格	2023	2022	2021	2020
最低点	45/80	38/80	47/80	45/80
得点率	56.3%	47.5%	58.8%	56.3%

労働基準監督官 A

1次合格	2023	2022	2021	2020
最低点	24/80	27/80	33/80	31/80
得点率	30.0%	33.8%	41.3%	38.8%

裁判所一般職（東京高裁）

1次合格	2023	2022	2021	2020
最低点	40/70	41/70	42/70	37/70
得点率	57.1%	58.6%	60.0%	52.9%

特別区 I 類

1次合格	2023	2022	2021	2020
最低点	30/80	29/80	38/80	40/80
得点率	37.5%	36.3%	47.5%	50.0%

※1次合否は択一のほか、論文試験も加味される。

東京都 I 類 B（一般方式）

1次合格	2023	2022	2021	2020
最低点	16/40	17/40	25/40	23/40
得点率	40.0%	42.5%	62.5%	57.5%

※1次合否は教養択一のほか、論文・記述試験も加味される。

【1次合格の目安⇒60%の得点率】

公務員試験のボーダーラインは一般的に 60%程度が目安とされています。左記の試験種のうち、国家公務員試験（国家一般職・国税専門官・財務専門官・労働基準監督官・裁判所一般職）においては択一試験のみで 1 次合格者を決定しているため 60%前後の得点率で 1 次突破が見えてきます。ただ、近年は国税専門官、労働基準監督官の両試験については 40%～50%程度の得点率でも 1 次合格できる状況です。

一方で、特別区 I 類、東京都 I 類 B においては択一試験に加え、論述式の試験も 1 次の合否に加味されるため、択一試験の得点だけでボーダーラインを考えることはできません。

特別区 I 類（事務）では、例年択一試験で 60%以上の得点率があっても 1 次不合格になることがあります。年度によっては、得点率 75%の方が 1 次不合格になる一方で、55%の方が上位で最終合格を果たすケースもあります。そのため、択一試験だけでなく、論文試験にも力をいれて取り組む必要があります。

東京都 I 類 B（一般方式）では、教養択一・論文及び専門記述試験の点数を加味して 1 次の合否を決定しますが、教養択一の基準点が 2021 年までは高い水準でした。基準点とは、最低限取らなくてはならない得点のことを指し、一般的には平均以下の得点で設定されています。基準点を下回る場合は採点されず、不合格が確定する仕組みとなっています。国家一般職など多くの試験では 30%～50%付近が基準点となっていますが、東京都の場合は、教養択一試験の難易度が低く、平均点が高いことから、60%前後が基準点となる年もあります。どの試験にもいえることですが、択一試験が基準点を下回らないことも重要だといえます。

【試験倍率】

国家公務員		2023 年			2022 年		
		1 次	2 次	総合	1 次	2 次	総合
国 家 一 般 職	関東甲信越	2.0	1.4	2.8	2.5	1.4	3.5
	東海北陸	1.8	1.5	2.7	2.0	1.4	2.7
	近畿	2.0	1.4	3.2	2.4	1.3	3.1
国 税 専 門 官 A	—	1.7	1.8	3.1	1.5	1.8	2.7
財 務 専 門 官	—	1.6	1.8	2.8	1.3	1.7	2.2
労働基準監督官 A	—	1.2	3.2	3.8	1.1	3.4	3.8
裁 判 所 一 般 職	東京高裁	1.6	1.7	2.9	1.6	2.9	4.9
	名古屋高裁	2.0	2.5	5.3	2.3	2.6	6.6
	大阪高裁	1.7	2.7	5.1	2.5	2.7	7.0

※1次=1次受験者数÷1次合格者数

※2次=2次受験者数÷最終合格者数

※総合=1次受験者数÷最終合格者数

地方公務員		2023 年			2022 年		
		1 次	2次以降	総合	1 次	2次以降	総合
東京都 I 類 B	行政一般方式	1.4	1.7	2.4	1.6	1.9	3.1
特別区 I 類	事 務	1.3	1.5	2.5	2.0	1.4	3.6
神奈川県 I 種	行 政	1.1	3.0	3.2	1.3	3.1	4.0
横浜市	事 務	2.5	3.3	8.1	1.9	3.3	6.1
埼玉県上級	一般行政	1.3	2.3	3.1	1.7	2.2	3.8
さいたま市	行政事務 A	1.7	2.2	3.5	1.7	2.1	3.5
愛知県	行政 I	2.1	2.8	5.9	2.0	3.4	7.0
名古屋市	事務行政	2.6	3.9	10.1	1.3	2.2	3.0
大阪府	行 政	1.9	3.3	6.1	2.1	3.8	7.9
大阪市	事務行政	2.9	1.5	4.3	2.2	1.5	3.3

※1次=1次受験者数÷1次合格者数

※2次=2次合格者数÷最終合格者数

※総合=1次受験者数÷最終合格者数

▶倍率は年度ごとに変動するものですが、近年は低下傾向にあり、直近2年で比較しても国家・地方ともに多くの試験において倍率が前年を下回っています。特に1次倍率が2倍未満の試験も増えており、そのような試験種では受験者の過半数が1次突破できる状況であることがわかります。前述のボーダーラインと合わせて考えても、筆記試験の対策は決して厳しい状況とはいえないでしょう。

一方で、主に2次以降で行われる人物（面接）試験の倍率は、地方公務員を中心に2倍を超えるような試験種も多くあり、その対策を疎かできない状況だとわかります。TAC 公務員講座では入学当初から面接対策ができますので、心配な方は筆記試験対策と並行して面接対策も進めていきましょう。ただし、本試験ではおおむね筆記試験を通過しなければ面接試験に進めないことから、1次試験対策優先で進めていきましょう。

3. 学習スタンス・方法

【択一試験の学習スタンス】

出題数の多い科目を優先

➡試験種により多少の違いはありますが、多くの試験種では基本講義を得点のベースにすることが結果を出すために必要です。例えば教養択一試験と専門択一試験の両方が課される試験を受ける場合、数的処理・文章理解・憲法・民法・行政法・ミクロ経済学・マクロ経済学・財政学・政治学の9科目(88回)を最優先に取り組むとよいでしょう。ただし、数的処理・民法・経済学などは受験生が苦手とする傾向が強く、これらをすべて得点源にできるとは限りません。場合によっては、それ以外の科目でその苦手分を補填する必要性がでてきます。いずれにしても基本講義をベースにしつつ、他の講義で補完するスタンスで学習を進めることが合格への最短経路だといえます。

教養(基礎能力)より専門を優先

➡科目間の関連性を考えると、一般的に学習効率は教養よりも専門の方が高いといわれています。また、多くの試験では専門択一の標準偏差(得点のばらつき度合い)が教養択一よりも高いため、できる人とできない人の差が開きやすいともいえます。さらに国家一般職などのように、試験種によっては専門の方が教養よりも配点が高いこともあります。そのため、教養と専門のどちらも均等に力を入れて取り組むのではなく、スタンスを分けて取り組むべきです。全体として60%の得点率を目指しつつ、「教養は負けないための努力」、「専門は勝つための努力」、と分けて考えることが効率的だといえます。

教養択一は50%前後の得点率(=平均点付近)を最低限の目標とすれば、基準点を下回ることもなく、負けることはありません。一方で、学習効率の高さから専門択一は70%以上の得点を目標としても、通常の実力の範囲内で実現できるはずです。

例) 国家一般職 ⇒ 基礎能力 15/30 (50%) + 専門 28/40 (70%) = 43/70 (60%)

3本柱を軸に複数科目の並行学習

➡公務員試験では、これまでの受験対策などで行ってきた勉強方法ではうまくいかない場合があります。例えば、1つの科目に特化して取り組み、その科目の学習が完了した後に他の科目に移る方法を採用したとします。この場合、短期集中の学習効率は高いものの、取り組む科目数が多いために、完了した科目を放置する期間が長くなってしまいます。せっかく取り込んだ知識が劣化し、再度インプットし直さなければならないことになると、かえって効率が悪くなってしまいます。そのため、一般的に公務員試験は1科目ずつを直列的に取り組むよりも、複数の科目を並行して進める方がよいとされています。とりわけ、公務員試験では学習の3本柱と呼ばれる一般知能分野(数的処理・文章理解)、法律分野(憲法・民法・行政法)、経済分野(ミクロ・マクロ・財政学)を並行して学習することが一般的です。例えば、1週間単位でみると、これら3つの柱をそれぞれ週に1コマ受講しつつ、余力があれば他の科目も受講するスタイルで取り組むことが理想的だといえます。教室講座の日程表やモデルカリキュラムを参考にしながら、自分にあった学習計画を練っていくとよいでしょう。特に、学習初期の段階であれば、まずは知能分野の数的処理、法律分野の憲法、経済分野のミクロ経済学からスタートするのが一般的です。

【学習計画の基本】

学習計画に限らず、計画というと「何を」「いつ（までに）」「どのように」「どの程度」するのかを決めることと考えるはずですが。相談される受講生もおおむね2W2H（What, When, How, How much）を訪ねる傾向にあります。ただ、せっかくの計画も、あまりに細かすぎて実行できなければ計画倒れになり、逆に大雑把すぎると何をしたいか分からなくなる可能性があります。学習の計画が上手くできないと感じている方の多くは、学習のスケジュールにばかり気を取られてしまっています。そのような方は、目的・目標・現状・方針・手段などにそれぞれ細分化して整理するとよいかもしれません。というのも、「何をすればよいか？」と悩んでいる方のほとんどは手段の裏付けとなる目標や現状を見失っていることが多いからです。

計画は…現在置かれている「状況」と、実現したい「目的」とを結びつける「行動」を決定すること。

…と定義してみます。

目的は自らが希望する成果（未来）で、一般的にこれを大きく変更することはありません。これに対して行動は手段（現在）です。手段は、これまでの状況（過去）を踏まえながら、随時修正することが要求されます。この2つの側面（過去と未来）を含めていなければ、学習計画は絵に描いた餅になってしまいます。

目的地へ向かうとき、「目的地」と「現在地」の両方が見えていないと迷子になってしまいます…学習についても同様です。①具体的な目標設定と②正確な現状把握がなければ、本当に必要な学習（行動）が見えてきません。

※「目標」とは目的に期間や到達レベルを加えたものをいいます。

具体的な目標設定

⇒合格に必要な「点数」を決める。合計点を先に決め、出題分野ごとにノルマを割り振る。

- 試験種によって合格点が異なるが、最低限「教養5割前後」、「専門6割前後」で設定。
- 受験する試験の科目分野ごとの出題数を確認し、目標点を設定する。
- 講義進度なども考慮し、目標の到達時期（期限）についても明確にする。

例)	○○試験	分野(科目)	出題数	目標点	到達度(%)		
					◎月末	■月末	▲月末
教養 (分)	知能	文章理解					
		数的処理					
		小計					
	知識	社会科学					
		人文科学					
		自然科学					
		小計					
合計					—	—	—
専門 (分)	法律	憲法					
		民法					
		行政法					
		小計					
	経済	ミクロ経済学					
		マクロ経済学					
		財政学					
		小計					
	政治	政治学					
		小計					
	他						
		小計					
	合計					—	—

正確な現状把握

⇒具体的には「得点状況」を指す。出題分野ごとの正答率や課題をしっかりと把握できているか？

- アウトプット（問題集）の結果を記録として残す。
- 基本演習（総合演習含む）の成績を確認、分析する。
- 本試験問題集などを利用し、現時点での実力を測ってみることも可能。

【例】

（問題集の場合）

科目（分野）	日付	ランク別正答数（正解数/問題数）					平均
		AA	AB	BA	BB	…	
憲法（第1回講義）							
数処（第1回講義）							

≪補足≫

問題集（過去問集では問題ごとに以下のように、日付や結果を書き込める欄があります。

例) 数的処理の場合

第5回	図形		難易度	
数-No.105	1: 12/1 ◎	2: 12/2 △	頻出度	

問題を解く際には解いた日付と結果（理解度）をこまめに記入しておきましょう。

（基本演習の場合）

科目（分野）	日付	正答率別の正解数（正解数/問題数）			全国平均	得点
		60%以上	40%~60%	40%以下		
憲法 (①)						
数処 (①)						

課題の抽出・行動の決定

⇒定期的に目標と現状のギャップを分析し、課題を抽出する。

- 改善が可能な課題は、改善策とそれを実施する時期（確保する時間）を決める。
- 一定期間改善策に取り組んだ後、改善されているかを確認する。
- 改善の見込めない課題は、目標の修正を図る。

【例】

日付	科目	現状	目標	課題	優先度	改善策	実施期間

【目的別の学習】

ある程度学習が進んでくると、異なる目的を持った複数の学習を並行して行うことになります。ここではその目的を【育てる】【守る】【修復する】の3つに分けてポイントを説明します。

【育てる】

学習している時期を問わず、未学習または進行中の科目は存在するものです。それらの科目については、当然ながらインプットすることが大切になってきますので、講義を受講し、じっくりと復習する時間を設けることが重要です。もちろん、不明な点は積極的に質問をするなどしてその科目を育てていきましょう。特に主要科目については、得点の可能性を広げる分野なので、雑に復習をするとむしろ効率が悪いといえます。通学（教室）で受講する方は講義に穴が開かないように気を付け、欠席した場合などは必ず Web 講義などを利用してリカバリーして行ってください。

例)	○月（第1週）					
	月	火	水	木	金	土・日
講義	憲法①	数処①	ミクロ①	政治学①	—	予備日
復習				—	数処①	
問題集				—		

学習の進捗度が遅れ気味になってしまう受講生の中には、試験日に「間に合わせる」ことに重点を置きすぎて勉強が雑になってしまう方がいますが、それでは本末転倒になってしまいます。試験日に「間に合う」とはすべての講義を雑に消化することではないはずです。合格は得点であって、受講した講義の数ではありません。焦りを感じることは不自然ではないですが、そこを我慢してじっくりと腰をすえて、学習時間を設けることが得点の積み上げにつながります。

到底達成できない学習量を計画に盛り込むことは意味のないことですが、可能だと思っても、いざやってみると、想定よりも多くの時間を要してしまうことが多々あります。このような時のために必ず予備日を設けるようにしましょう。予備日を使うことで想定できなかったことを吸収し、その週の予定をクリアできると、その後の計画も大幅に狂うことが少なくなります。予定を翌週に先送りし続けることは、計画が狂うだけでなく、焦りや不安の増大を招き、学習の質やモチベーションの低下につながりやすいものです。無理のない計画を心がけましょう。

例)	○月（第1週）						
	月	火	水	木	金	土	日
講義	憲法①	数処①	ミクロ①	政治学①	—	政治学①	—
復習				—	数処①	—	数処①
問題集				—	—	—	

【守る】

受講が終了し、ひと通り復習を終えた科目についてはアウトプットを中心とした学習にシフトするのが一般的ですが、これは、一度取り込んだ知識を保守点検（メンテナンス）することが目的だといえます。学習というよりは、成果と課題を確認する仕分け作業だと考えた方がよいのかもしれませんが。

ある程度学習が進んでくると、新たに知識を獲得することも大切ですが、それ以上に、獲得した知識が失われないよう努力することが重要となってきます。学習が進めば進むほど、メンテナンスの対象となる科目が増えるため、アウトプットにかかる時間も増えていきます。

しかし、進行途中の科目のインプット（受講や復習）にも時間をかける必要があるため、費やせる時間には限界がでてきます。そこで、終了した科目を長期間放置しないためにも、日々の隙間時間などを利用して点検する必要がでてきます。

例えば1日のうちで30分というように時間を決めて、その範囲内で過去問題集から問題を数問ピックアップして解いてみるだけでもよいでしょう。点検している中で、問題点や課題なども浮き彫りになりますが、目的はあくまで点検なので、ここでは点検に徹することが大切です。

点検の最中にそのつど時間をかけて再度インプットをしてしまうと、点検が進まなくなり、学習の管理ができなくなっていくます。さらにもっと重大な課題がその先にあるかもしれないのです。そのため、日々の点検で気づいた課題などは記録として残すだけにし、積みあがった課題は別の時間にまとめて行うことが理想的だと思います。これは、修復箇所が多くなってしまう場合にも有効です。時間には限りがあるので、より重要なテーマの修復を優先させることができるからです。

例)		○月（第1週）					
		月	火	水	木	金	土・日
進行中の科目	講義	民法①	マクロ①	行政法①	社会学①	—	予備日
	復習				—	自然①	
	問題集	—			—		
終了した科目	問題集	毎日（●●分）：憲法5問、数処3問、〇〇5問…					

➡問題集に日付や理解度を記入していると、管理が楽になります。知識が定着したものは点検（メンテナンス）の間隔を大きく取り、課題が多すぎるものは別途時間を取り、修復に回していきます。

点検する問題を選ぶ場合、例えば第1章から順に5問というように、特定の章や分野を中心にピックアップする方もいます。これは、気になる分野を集中的に点検したい場合などに有効だと思います。しかし、そのようなやり方をすると、長い期間放置してしまう分野がでてくる恐れもあります。

点検は劣化しそうな知識を早期に発見し、獲得した知識が失われないようにするための作業です。そのように考えれば、均等になるようにバランスよくピックアップする方が無難かもしれません。

最近では「くじ引きアプリ」などを使ってランダムに問題を選ぶ方もいますので、やり方に正解はありませんが、その選び方が自分の目的に合っていることが大切なので、工夫していきましょう。

【修復する】

アウトプットを通して、修復の必要がある分野については再度インプットを行う時間を設けることとなりますが、重要度（頻出度）の高いものを優先するようにしましょう。人間は「忘れる動物」です、全てを抱え込むことはできません。

重要度が低いものに関しては、目標の得点に影響が出ないと判断できればそのまま放置しても差し支えないでしょう。逆に大きく影響するものに関しては、必ず修復する時間を設けるようにしてください。これは「課題」を「成果」に変換する重要な作業となります。

例えば、2週間に1回、1回につき1時間～2時間というように、それまでに行ったアウトプットの中で特に修復が必要なものに対して、インプットしなす時間を設けることができると思います。設定した予備日をうまく活用できるかもしれません。そうすることで、日々抽出されて累積していく課題のうち重要性の高い項目を成果へと変換していき、達成感を少しでも感じるようになると思います。

【合格はトータルバランス（総合力）で考える】

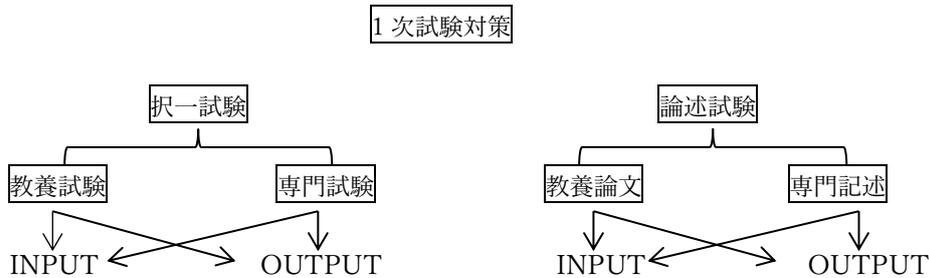
➡学習に取り組む中で、視野が狭くなって全体が見えなくなることは、公務員受験生なら誰にでも起こりえることです。特に秋以降から、「点数が伸びない」「復習が追い付かない」「受かる気がしない」と、モチ

ベーションを落としてしまい、相談に来る方が増えてきます。見方によってはまだ嘆く余裕があるともいえますが、このような方達に共通しているのは、できないことを過剰に意識する視点です。個人的な印象ですが、できないことを嘆く人は、できることから目を背けている傾向が強いと感じます。できることは目の前にいくらかでもあるものです。それが見えてこないのは大抵、ネガティブになっているときです。前向きに取り組めないと、効率も効果もなくなってしまいます。誰にでも苦手な科目やできないことはありますが、合否を分けるのは、「できること」を探る姿勢や視点だと思います。合格は個別の科目の成果ではなく、総合的な得点で考えていきましょう。そのためにも、自分を俯瞰できるツールとして学習計画は必要不可欠ではないでしょうか。

完璧な学習計画などは誰にも作れませんので、コツコツと日々の学習を積み重ね、丁寧な現状把握に努めていきましょう。時には思うように行かないこともあると思いますが、正しい計画を立てた人ではなく、うまく修正できた人に勝利の女神は微笑むものです。無理のない計画を心がけて、着実に合格へと近づいていきましょう。

4. まとめ

合格を果たすために行うことは人によって異なりますが、おおよそ以下の対策が含まれています。



これら膨大な作業をすべて進め、仕上げていくと考えると、一つ重要な要素が必要になってきます。

それは、「心身ともに健康であること」です。健全な肉体に健全な精神が宿る…という言葉があるように、心と体は互いに影響しあう関係にあります。受験は体力も必要なものです。体が弱っていると、気持ちだけでは空回りして乗り越えられないこともあります。逆に、体力があってもモチベーションが上がらない状況では当然うまく乗り越えていくことはできません。私たちは心身のバランスに影響を受けながら生活しています。健康な体は適度な運動や食事・睡眠などの生活習慣によって支えられています。意識的に生活リズムを整え、体調の管理に気を使っていきましょう。

一方で「健康な心」もちょっとした工夫でコントロールできると思います。単純ですが、前向きに考えることです。受験生にとってはこちらの方がより重要かもしれません。誰にでも経験があると思いますが、人は時間に追われると、自然にネガティブになるものだと思います。そうならないためには、意識的に自分の感情をコントロールすることが大切だといえるでしょう。ただし、無理やりだと逆効果になりかねません。自然とポジティブになれるような習慣を持つとよいでしょう。例えば、「感謝する」ことができます。自分の将来のためにチャレンジができる環境にあることを素直に感謝できるはずです。また、「否定的な表現をなるべく使わない」ようにすることも、習慣化すると効果的だと一般的にはいわれています。他にも工夫できることはあると思いますが、いずれにしても、好循環を生み出すためには、基点となっている自分を少し変えてみることから始めなければならないと思います。

講師・スタッフ一同、合格を目指すみなさんと最後まで伴走してまいりますので、一緒にがんばっていきましょう。